

～今月の花木～



スギ 杉

ヒノキ科 常緑針葉高木 分布：本州～九州

日本の特産種で古くから利用され、日本の人工林では最も多く植林されている。上の写真は雄花である。2月～4月にかけて多くの花粉を飛ばす。



県木でもあるイヌマキの生垣（千葉県にて）

ふるさとの木

生まれ育ったところ、思い入れのあるところ、そこにはどんな木があったのか、印象にある木をたまには思い浮かべてみては、いかがでしょうか。

「ふるさと」とパソコンなどで検索すると昨今は「ふるさと納税」の事ばかりが羅列されますが、本来の意味の生まれ育った場所（故郷）や物事の発祥地（元々あった）的な意味での「ふるさとの木」について考えてみたいと思います。

ふるさとの木として、大きく分けて二つに考えてみました。

一つは私たち一人ひとりが経験してきたことから印象に残っている木、庭や学校の木やその地方でよく見かけた木も含め身近にあった「思い出のある木」があります。

もう一つはその土地で伐採や植栽（植林）など人間が自然に手を加えていない状態で、本来その土地で主役となるであろう木、少し専門的な言葉ですと「潜在自然植生の主木となる木」があります。潜在自然植生の例として関東平野の大部分は常緑広葉樹林帯で、高木層がスダジイ、タブノキ、シラカシなど、低木層がアオキ、ヤツデ、ヒサカキ、マンリョウなど、草本層がヤブランなど、ほとんどが常緑植物から成り立っています。

しかし身近な雑木林に目を転じてみると、クヌギやコナラなど落葉樹が多いようです。これは人間が里に近い場所における肥料や燃料となる薪を採取するために、定期的に伐採・更新して維持してきた林です。放っておけば長い年月はかかりませんが、常緑広葉樹主体、

の林になって行きます。では、身近な雑木林の木は潜在自然植生の観点からは「ふるさとの木」と呼べないのかもしれないが、その土地で利用される風景を築いてきた木も「ふるさとの木」と呼んでいいと思います。

また、地域によってよく植えられている、親しみをもたれている木なども「ふるさとの木」と呼べると思います。

「ふるさとの木」と言われてもピンとこないときは、各都道府県や区市町村にシンボルとして制定されている木がありまので、参考にしてみてはいかがでしょうか。

（裏面に都道府県の木を紹介しています）

宮脇方式・鎮守の森・雑木林

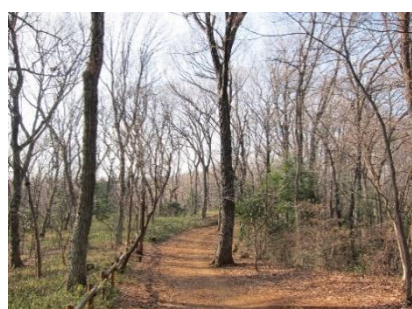
その土地本来の木を植える、潜在自然植生を構成している主な樹種を混植・密植する森づくりの方法を発案者の植物生態学者、宮脇昭氏の名前から「宮脇方式」といわれています。植樹には、その土地本来の潜在自然植生（＝ふるさとの木）である樹種の苗木を高木から低木まで多種類混ぜ合わせ、自然の法則に従って不規則に混植・密植させ、多様性と我慢と競争をさせ、樹木本来の生命力を引き出すやり方です。除草などの成長を手助けする管理は植樹後の3年間だけで、その後は自然の生育や淘汰に任せることも特徴です。

関東地方の潜在自然植生は主に常緑広葉樹ですが、その植生が残っている場所として社寺などの「鎮守の森」があります。明治神宮の森は大正時代に創建された人工的に作られた鎮守の森ですが、スギやヒノキなど針葉樹は少なくシイノキやクスノキなど常緑広葉樹が多い森で、当時の植物学者達は何を植えたら立派に育つのか、また100年後自然な状態になっていくのかを考え、時の為政者のスギを植えたい意向に対し、スギが都会に適さないことを説明し、納得させました。

落葉広葉樹が主体のいわゆる「雑木林」は、原生林（一次林）が伐採や火災などによって失われた後に、自然もしくは人為的に再生した林で二次林とも呼ばれます。常緑広葉樹主体の林に比べると、明るい感じがします。林床にも日が届くためカタクリやシュンランなどの草花が生育可能な林です。かつては落葉や木材から肥料や燃料などの生活の糧を得るために人の手によって伐採・更新がされ、人の営みの中で維持されてきましたが、現在では維持するには手間のかかる林です。



常緑広葉樹が主体の明治神宮の森



落葉広葉樹が主体の雑木林（東村山市～所沢市・八国山緑地）

密植・混植・競争させる緑化

ショッピングモールのイオンモール敷地外周部は樹林帯で覆われているところが多い気がしますが、その構成に特徴があります。マウンド上に盛った土の上に多くの種類の木が沢山密に植えられています。1本1本に支柱をつけた形跡はありません。どうやら苗木の状態のものを沢山植えて競争させ、生き残ったものが大きくなっているようです。植えられている樹種もその土地の潜在自然植生に近いものを含めており、左記の記事にある宮脇方式が反映されて、「イオン ふるさとの森づくり」として植栽されているようです。

商業施設に限らず施設の敷地内外に植栽をしている事例は多くみられますが、その多くは植木畑で生産され、ある程度育った樹木を設計図面に沿って規則性をもって植え付けいるものが多く、イオンモールのような植栽は他所では余り見かけないやり方です。今後の木々の成長による変化に興味をわきます。



都道府県の木 一覧

昭和41（1966）年に県民投票などにより、各都道府県のシンボルとしての木が制定されました。同じ樹種のところも多くあります。

<p>②青森県 ヒバ(ヒノキアスナロ)</p>	<p>③岩手県 ナンブアカマツ</p>	<p>④宮城県 ケヤキ</p>	<p>⑤秋田県 アキタスギ</p>	<p>⑥山形県 サクランボ</p>	<p>①北海道 エゾマツ</p>		
<p>⑮新潟県 ユキツバキ</p>	<p>⑯富山県 タテヤマスギ</p>	<p>⑰石川県 アテ(ヒノキアスナロ)</p>	<p>⑩福井県 マツ</p>	<p>⑱山梨県 カエデ</p>	<p>⑨栃木県 トチノキ</p>	<p>⑦福島県 ケヤキ</p>	
<p>⑳長野県 シラカバ</p>	<p>㉑岐阜県 イチイ</p>	<p>㉒静岡県 モクセイ</p>	<p>㉓愛知県 ハナノキ</p>	<p>㉔三重県 ジングウスギ</p>	<p>⑪埼玉県 ケヤキ</p>	<p>⑩群馬県 クロマツ</p>	<p>⑧茨城県 ウメ</p>
<p>㉓②島根県 クロマツ</p>	<p>㉓①鳥取県 ダイセンキヤラホク</p>	<p>⑫千葉県 イヌマキ</p>	<p>⑬東京都 イチヨウ</p>	<p>⑭神奈川県 イチヨウ</p>	<p>⑬⑩⑨⑧⑦⑥⑤④③②①</p>		
<p>㉓④熊本県 クスノキ</p>	<p>㉓⑦香川県 オリーブ</p>	<p>㉓⑥徳島県 ヤマモモ</p>	<p>㉓⑤山口県 アカマツ</p>	<p>㉓⑧兵庫県 クスノキ</p>	<p>㉓⑦大阪府 イチヨウ</p>	<p>㉓⑥京都府 キタヤマスギ</p>	<p>㉓⑤滋賀県 モミジ</p>
<p>㉓④⑤宮崎県 フェニックス・ヤマザクラ・オビスギ</p>	<p>㉓④②長崎県 ツバキ・ヒバ(ヒノキ)</p>	<p>㉓④④大分県 ブンゴウメ</p>	<p>㉓④④広島県 モミジ</p>	<p>㉓④③岡山県 アカマツ</p>	<p>㉓④③和歌山県 ウバメガシ</p>	<p>㉓④②奈良県 スギ</p>	
<p>㉓④⑦沖縄県 リュウキュウマツ</p>	<p>㉓④⑥鹿児島県 カイコウズ・クスノキ</p>	<p>㉓④④④佐賀県 クスノキ</p>	<p>㉓④④④福岡県 クルマツツジ</p>	<p>㉓④④④高知県 ヤナセスギ</p>	<p>㉓④④④愛媛県 マツ</p>		

本記事の樹木写真は全て皇居東御苑の一角にある、都道府県の木コーナーにて、昨年12月に撮影しています

～当社では障害者、親と暮らすことが出来ない子供たちの施設（社会福祉法人）に皆様から頂いた書類の使用済み切手等を使い、支援活動をしています～